

BLACKHEN
HORROR
ホラー・ワールド

THE THING

FROM ANOTHER WORLD!

MODELING by マハヤ、ハオ.



カラーリング — タミヤカラーアクリルペイントによる —

- ① 服 — X9 + XF9 + XF1 ② くつ、ベルト — XR1 ③ 裂傷 — XF21 + XF59
④ 肌 — XF15 + XF52 (塗らなくてもよい。) ロ内 — X7 + XF9 白目、爪、歯 — XF21
瞳 — X7 + XF52 口唇 — XF49

これらのほかのイメージによって、ぼくが使用した塗料です。これらにさらにハイライトやシャドウを工夫すればよりリアルになりますし、まったくリアルでも、もっと素晴らしくできるはずです。

THE THING FROM ANOTHER WORLD 遊星よりの物体 X — 1951

《 ス ト ー リ ー 》

冬近い北極に航空機と思われる物体が墜落した。極地科学研究所の所長キャリントン博士は、フランス国防軍司令部に調査隊の派遣を要請。ペンブリー大尉を隊長とする一行は、吹雪の中を北極へと飛んだ。研究所に到着した一行は、待ちうけた博士の説明を受け、博士とともに現地へ向う。調査隊一行はそこで氷の中に埋もれた巨大な宇宙船を発見する。宇宙船を堀り出すために用いた爆弾の火がその船体にまで引火。唯一収容できたのは生物と思われる冷凍物体だけだった。3メートル程もあるその塊を研究所へ持ち帰った夜。氷の中で冬眠状態にあった生物（物体 X — THE THING）が目覚め、次々と研究所内の人々を襲い始めた。外界と連絡も取れず、隔絶された人々と物体 X の壮絶な闘いは、高圧放電によって物体 X を焼き殺すことによって終わった。……が、もげた物体 X の腕が落ちていた……。

《 ス タ ッ プ 》

ジョン・W. キャンベル・ジュニアの短編“影が行く”を原作に、ハワード・ホークスがプロデュース。監督はクリスチャン・ナイビー。脚本はチャールス・レダラー。撮影、ラッセル・ハラーソン。特撮はドナルド・スチュワート。物体 X には、'55 年から 20 数年間もテレビで人気を集めた“ガンスモーク”の保安官マート・デイロンを演じたジェームス・ターネスが扮した。'50 年の“月世界征服”の成功により類似作品が続々発表された50年代初頭の映画界で、それ以前から映画化が計画されていたこの作品は、当然それらの映画とは、一線を引いて考えられてよい。完成度が高く、宇宙生物による地球征服というジョッキンガなテーマの一連の映画の最初の本格的な作品となった。

《 物 体 X — THE THING 》

トゲのある木の枝のような手を持つ身長 2メートル余のこの謎の物体 X は、強い再生能力を持ち、動物の血液を養分とする植物人間という設定のようだ。'82 年版の X のように変身はせず、その怪力と強靱な生命力で、孤立した基地内の人々を恐怖に落として入れた。武器を使わず言葉も発しないのだが、その身に付けた衣服から宇宙船のパイロット、または乗組員だったと思われる。

1. 色の乗りがよくなるよう、洗剤で洗うか、ベンジン等で拭くなど油分を落としてください。
2. つぶれたり、ねじれた状態のパーツがある場合は、熱湯（60℃以上）の中でしばらく温めて下さい。数分で自然な状態にもどります。
3. 不用な部分をカッター等で切り取ります。
4. フライヤーで十分あたためて、やわらかいうちにはめ込みますが、無理せずいいに行なってください。
5. 形状が複雑なため、多少気泡がはいっている場合があります。ポリバテ等でうめてください。このモデルでは、ほとんどすべてのキットのヒサの裏側にヒビがはいってしまいました。質感、形状を追求しすぎたためのミスですが、ゴメンナサイ。
6. 彩色には、プラカラー等、水性アクリル塗料が、適しています。自由なイメージで彩色してください。雑誌“宇宙船”Vol.11 P.12の着色写真によると、頭部および手は、枯木を思わせるかっ色、衣類はそれよりずっと濃いこげ茶、トゲ、ツメは汚れた白、目は赤または茶、くちびるはくすんだグリーンのように見えます。

TEL 03-400-2214 ビリケン
東京都港区南青山 5-17-6 南青山グリーンソナイツ 101